

第1章 圏域の将来像

21世紀を迎え、高度情報化や国際化が進展するとともに、本格的な少子・高齢社会が到来しようとしています。加えて環境に配慮した取り組み、生活圏の広域化を踏まえた社会資本の整備が求められています。

また、中部国際空港の開港、東海環状自動車道東回りルートの開通が、当圏域に与える影響は、多大なものがあります。これを当圏域の飛躍の機会と捉え、伝統文化、先端技術などの地域の特性を生かしながら、国内はもとより、世界の人々が集まる魅力ある地域づくりを推進していきます。

さらには、地方分権、規制緩和等が進み、地域の自立性が求められる中で、住民参加を積極的に進めるとともに、それぞれの市が役割を担う中で一層の連携を深めていきます。

こうした視点に立ち、当圏域の将来像を

「人・もの・情報」が行き交う魅力あふれる産業文化創造圏

と設定し、以下の柱を圏域づくりの目標とします。

交流が広がる圏域づくり（基盤づくり）

交流人口を増やし、圏域住民との交流活動を促進するために、基盤となる交通ネットワーク、情報ネットワークの形成をめざします。

人々が集う圏域づくり（魅力づくり）

圏域住民のみならず、圏域外からも多くの人々が集い、交流できる魅力ある圏域をめざします。

だれもが住みやすい圏域づくり（住環境づくり）

圏域住民が住みつづきたい、圏域外の住民も住んでみたいと思うような安全で快適な住環境づくり、健康でいきいきと暮らせるまちづくりを進めるとともに、活力ある産業の育成をめざします。

みんなで育てる圏域づくり（協働*）

圏域住民が協力して人づくりを進めるとともに、行政と住民が協働*しながら特色ある自立した圏域をめざします。